

1. 教員養成の目的及び当該目標を達成するための計画に関すること

北陸における教育の淵源は、藩政時代、五代加賀藩主前田綱紀（松雲公）の学問奨励にさかのぼり、公の発願は、寛政4（1792）年藩校明倫堂の開校となって結実し、爾来金沢は、学都として学問尊重の気風に培われ、北陸文化の中心となってきた。このような歴史的背景、風土を基に、日本の将来を担うとともに世界文化に貢献し得る人材育成を目指し、昭和50（1975）年に石川県金沢市に学校法人松雲学園（昭和60（1985）年に学校法人北陸大学に名称変更）を設置し、同年北陸大学を開学した。公の「自然を愛し、生命を畏敬する」精神を受け継ぎ、建学の精神を「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」と定めるとともに国内外を問わず、異なる分野を学ぶ学生たちが、出会い互いに切磋琢磨することによって、さらにこの建学の精神の深化が生まれ、地域社会をはじめ日本並びに世界の発展に貢献し得るとの考えのもと、学園の基本構想に総合大学化、国際化を据えた。

本学教職課程及び教員養成への理念は、先述の「建学の精神」に基づき、学士課程教育を基盤として高い専門性を身につけるとともに、教職課程から教員に必要な専門知識、実践的な指導力、教育者としての使命感、責任感、教育力等を修得し社会の変化と共に変動する教育環境において、子供たちの可能性を創造的に発展させるため、専門知識と教育者としての総合的な能力を身につけた人間力のある教員を養成することにある。